

J-WIP 活動報告

企画担当理事



2025年7月15日、ワシントンDCで働く女性を応援する J-WIP(※) による第30回目のスピーカーイベント「Geopolitical Winds: Navigating the Indo-Pacific Region」(地政学的動向:インド太平洋地域の行方を読み解く)を開催いたしました。

当日は、アジア地域の地政学リスク分析を専門にするコンサルティング会社、The Asia Groupのパートナー、ミラ・ラップ=フーパー氏を講師として迎えました。米国のインド太平洋地域戦略や日米関係の現状、行方について、自身の経験に基づく示唆に富んだ見解を披露いただきました。

夏の暑さが厳しい中ではありましたが、会場には男女問わず、27名の商工会会員・非会員が集まり、活発な意見交換が行われました。

ラップ=フーパー氏は、バイデン政権で大統領特別補佐官・国家安全保障会議(NSC)上級部長(東アジア・オセアニア担当)を務め、インド太平洋戦略、Quad、日米韓三国協力、地域経済・安全保障枠組み、日米関係に関わる政策の形成・実行に携わってきま

した。

それ以前は、新アメリカ安全保障センター(CNAS)、戦略国際問題研究所(CSIS)等で上級フェローを務めた他、ヒラリー・クリントン氏の大統領選挙出馬時(2016年)にアジア政策コーディネーター等も歴任されました。

本イベントではまず、ラップ=フーパー氏のパーソナル・ジャーニーを語ってもらいました。具体的には国家安全保障分野、インド太平洋地域の専門家を志した理由、キャリアの転機となった出来事、シンクタンクとホワイトハウスでの働き方の違いや子育てをしながらキャリアを築いてきた工夫や苦労などについてお話いただきました。

続いて、NSCの機能、組織編制などを中心に、米国の外交政策決定プロセスをバイデン政権と現政権を比べながら、説明されました。またご自身が携わったバイデン政権時のインド太平洋地域戦略、日米、日米韓関係、Quadなど、米国と同盟国との関係について、エピソードも加えながら、語ってもらいました。

また、直近のフォーリン・アフェアーズ誌でご自身が提案した「ゼロベースの米外交政策見直し」について解説。多極化が進む世界で展開される今後の米国外交政策、米中関係、日米関係等に関する考察を共有されました。

今回のイベントは、インド太平洋地域を中心に米国外交政策の現状、行く末について政策決定プロセスを踏まえながら理解し、同地域の地政学リスクについて考察する良い機会となりました。



(注)当イベントは原則オフレコでしたが、公表情報を基に講師の承認を得た情報を盛り込んでいます。

※J-WIP(Japanese Women in the Professions in Washington DC): ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016年1月から、ワシントン日本商工会として支援。